

(仮訳)

2009年3月12日

バーゼル銀行監督委員会

プレス・リリース

2009年3月10、11日の会合後、バーゼル銀行監督委員会(以下「バーゼル委」)は、将来の経済及び金融のストレスに対する強靱性を高めるため、銀行システムにおける資本水準の強化が必要であることを表明した。これは、ストレス時に取り崩しが可能な資本バッファの構築を促すような基準の導入や、自己資本の質の強化、自己資本枠組みにおけるリスク捕捉の改善、リスク・ベースでない補完的指標の導入などの施策を組み合わせることで達成されるであろう。また、規制上の最低自己資本水準についても、以上の事項やその他の関連する要素を勘案しつつ、現在のバーゼルⅡの枠組みを超える自己資本の水準と質を達成するために、2010年に検討を行う予定である。このような形で世界的な自己資本の枠組みの強化がなされることは、銀行システムに対する信頼を高め、より強靱な銀行システムの基礎を築くであろう。

バーゼル委は、現在の市場の自己資本水準に関する反応は、景気変動を増幅する効果を強く持っていると認識している。バーゼル委は、現在の経済及び金融のストレスが継続している間は、世界的な最低所要自己資本の引上げは行わない。実際に、バーゼル委は、規制上の最低水準を超える資本バッファは、損失を吸収し、経済に対する継続的な貸出を支えるためにあることを以前から表明している。